

家具製造メーカーが伝えたい! チェストの選び方

一般的に、タンスを買う時にはデザインやカラーはもちろんですが、あとはサイズと値段を見ることが多いと思います。確かにその通りなんですが、もっとポイントを押えて比較してみれば、納得のいく良い買い物ができるんです。そこで、「家具製造メーカーが伝えたい! チェストの選び方」をご紹介します。

チェックポイント 1 ひきだし 抽斗の構造

まず絶対に見て欲しいのが、抽斗の構造です。



左上の写真がオススメする「箱組」という構造。矢印のところに注目。この抽斗の場合、前板に箱状の抽斗内部材がネジ留めされています。対して箱組でない抽斗というのは、前板に「コ」の字状の抽斗内部材が付きます。つまり、箱組の場合は、前板と抽斗内部材が「面」で接合されているのに対し、箱組でない場合は、「線」で接合されています。結果として箱組の方がより頑丈で抽斗が一番壊れやすいのはこの部分ですから、箱組(四方囲い)構造か否かは要チェックです。

※ただし高級タンスなどでも、前板部分と抽斗内部材が一体で作られている場合もあります。



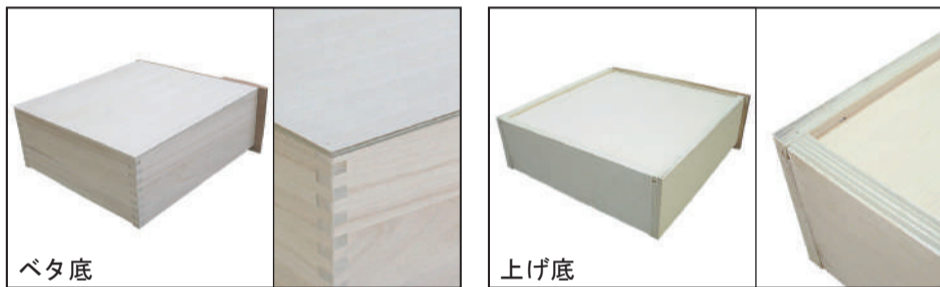
チェックポイント 4 ひきだし 抽斗内部の奥行



外見は同じでも、抽斗の奥行によって「収納力」が変わります。抽斗を1度抜いてみて下さい。表からでは分かりませんが、抽斗の奥行が本体の奥までいっているかどうかで、収納スペースが変わります。

チェックポイント 2 ひきだし 抽斗の底板

タンスが壊れるケースとして2番目に多いのが、底板が抜けるということです。抽斗の底板が抜けにくいような構造としては、底板の取り付け方が大変重要です。取り付け方の中でも「ベタ底」という構造は良いです。



普通、抽斗は底板がちょっと上げ底になっていて、抽斗の側板と底板には数mmの段差があります。しかし、ベタ底の場合は完全にフラットの為、底板が抜ける心配がありません。

この構造だと抽斗の開閉がスムーズだし、総底板でない場合は、下の段の抽斗の中の衣類を傷める心配もありません。あと、もう一点。厚みが厚ければ厚い程より頑丈な底板と言えます。

チェックポイント 5 ひきだし 抽斗の精度

「スライドレールがないよりあった方が良い」と思っている人が多いと思いますが、高級な婚礼タンスや桐タンスを見ていただければ明らかで、ガタツキが無く「精度が高い」抽斗の作り方をされているタンスは、スライドレールなど無くても抽斗はスムーズに開閉でき、隙間がなく密閉度がより高い為、桐材の調湿効果が存分に発揮できます。

ただ、冬物等厚手の衣類を収納するのに適した深い抽斗の場合、衣類を収納すると重たくなり開閉しづらい為、スライドレールが付いていた方が、使いやすいというのも事実です。

また、レールは「フルスライドレール」または、「3段引きスライドレール」と呼ばれるものを選んでいただいた方が、よりベターです。その方が抽斗を奥まで引き出せるから、大変便利です。



チェックポイント 3 総地板仕様

「総地板仕様」とは、地板が奥の壁板まである構造です。(壁板から1cm~2cm程度空いている地板もありますが、これは空気抜きの役割となります)

タンスの抽斗を全部抜いた状態ですが、棚のような感じでしょ? タンスを買う時に抽斗を抜くことなんて殆んどないと思いますが、ここが重要で本体の強度や密閉度また、底抜けの原因に大きく左右されます。

下記の写真をご参照下さい。



- ポイント ① 本体の強度が増します。
- ポイント ② 本体の密閉度が高い。
- ポイント ③ 抽斗の底抜けの心配がありません。
- ポイント ④ 抽斗の底とその下の抽斗に入っている衣類が擦れないので衣類が傷みません。
- ポイント ⑤ 抽斗の衣類が上の段の抽斗に引っ掛からないので、開閉がスムーズです。

チェックポイント 6 桐



チェストとして最高の材質といえば、「桐」です。特にシルクや和服などの高価な衣類を収納するには、桐で出来たチェストがベストです。その理由は、桐には防湿・防虫効果があるからです。

桐は通気性がよく、湿度を一定に保つ為防湿効果があり、虫が嫌う「タンニン」を多く含むことにより防虫効果などが挙げられます。このタンニンは、お茶などに含まれる渋みの成分で、防虫・防腐の働きがあり近年特に注目されています。

多湿な気候風土をもつ日本では、この性質を利用して日本古来の伝統的な技法で桐のタンスを作ってきました。このように桐のタンスには、衣類を守る効果があります。

桐によく似たフアルカタ材には上記のような効果はありません。